



特集  
ワイン紀行  
Part 1.



大航海時代に生まれた、至極の一滴

# マデイラワイン

紺碧の海に囲まれ、1年を通して温暖な気候に恵まれたポルトガル領マデイラ島。

“大西洋の真珠”と称されるこの島で生まれたマデイラワインは、  
世界三大酒精強化ワインの一つとして知られている。

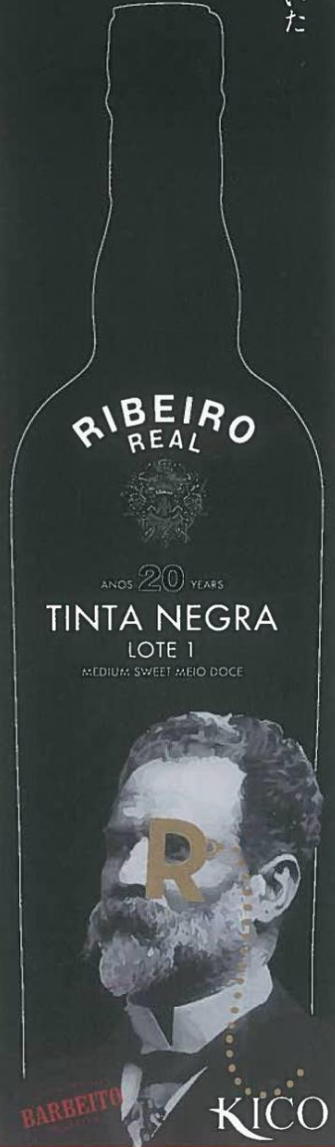
その芳醇な香りと奥深い味わいは、どのように生まれ、育まれてきたのか。

2016年7月19～22日の現地レポートを交えてご紹介！

取材・写真／本誌 西口久美子  
協力／マデイラワイン・刺繍・手工芸品協会 (IVBAM)、  
宮和子さん (通訳)、木下インターナショナル

特集 **マデイラワイン**

19世紀にマデイラ島に根付いた  
黒品種ティンタ・ネグラ。  
リベイロ・レアル伯爵の想いが  
今、バーベイトの手によって  
マデイラの常識を覆しました。



木ドインターナショナル株式会社  
<http://www.kinoshita-intl.co.jp>

1. 最新式のエストゥ  
ファを紹介するゴウ  
ヴェイア氏  
2. 手すりの役割も兼ね  
備えた、ワインを輸送  
するパイプ。移動する  
間も、太陽熱により温  
度が保たれる



ドーム型のカンティロ。庫内の温度管理を徹底することにより、目眩と酸味が調和した味わいが生まれる

歴史を刻む、革新的なワイン造り  
ヴィニョス **Vinhos Barbeito** パーベイト

1946年にマリオ・バーベイト・ヴァスコ  
ンセロス氏が創業した小規模生産、家族経営の  
ヴィニョス・バーベイト。1991年に現・3  
代目のリカルド・フレイトス氏が社長となり、  
総輸入発売元の木ドインターナショナルと資本  
提携。2016年には創業70周年、提携25周年  
という節目を迎えた。

取材当日は、ショップマネージャーのレアンド  
ロ・ゴウヴェイア氏が案内してくれた。同社では、  
ブドウは農家から買い付け、年間20万〜25万ℓの  
マデイラワインを生産。畑へ頻繁に出向いては入  
念に生育をチェックし、果汁の糖度が9度以上の  
ものしか使用していない。品種の8〜9割はティ  
ンタ・ネグラを用いており、ゴウヴェイア氏は  
「ティンタ・ネグラが『高貴な品種』の仲間入り  
をしたのはここ最近のことですが、当社では創  
業者マリオの代から重用し、研究を重ね、白品  
種に匹敵する高品質な味わいを実現しています」と  
話す。2015年のラベル規制改定後、初め  
てティンタ・ネグラと記載した商品を発売した  
のが同社だ。伝統を守りながらも固定概念に捉  
われない先進的な姿勢は、2008年に移転し  
た最新醸造施設の随所に見られる。

圧搾には伝統的な足踏みと同じ効果のある、重  
圧式の「ロボットラガル」を採用。この中で酒  
精強化とスキンコンタクト（醸し）を行うことに

より、骨格のしっかりとした余韻のある酸が生ま  
れる。3年物は全てエストゥファを行なうが、同  
社は2008年よりマデイラワイン初となるジャ  
ケット方式（9ページ参照）を取り入れた。これ  
により、ワインに焦げたような雑味が移ることを  
防ぎ、清涼感のある酸を引き出している。

長期熟成を行うカンティロにおいて特徴的な  
は、天井に熱伝導の良いステンレスを使用したド  
ーム型の構造だ。通常は階層を分けるが、同社では  
1フロアに5段の樽を積み重ね、1段目と5段目  
の温度差を5〜10℃まで広げている。セメントの  
壁にブラインドの窓を設置しているため四隅は中  
央付近より涼しくなっており、温度の微調整も可  
能だ。さらに、樽の配置は数年ごとに上から下へ  
と移動させるのが一般的だが、同社では定期的  
に樽からサンプルを取り分析。凝縮度合いなど、個々  
の樽の微妙な変化に応じた配置を行なっている。

ティスティングは、ブレンド試作室で実施。ティ  
ンタ・ネグラを使った樽熟成前の貴重なサンプル  
に始まり、ティンタ・ネグラをラベルに記載した  
第1号「リベイロ・レアルティンタ・ネグラ」の  
他、「ヴィネクスポ2003」の全ての酒精強化  
ワインカテゴリーで世界ベスト10に入った「セル  
シアル1978」なども登場。同社が目指すバラ  
ンスの良い、きれいな酸が個性豊かに表現され、  
奥の深いエレガントな味わいが印象的であった。

3. ステンレスタンクで休ませた、樽熟成前のティ  
ンタ・ネグラ。右が2015年、左が2010年に収穫・  
醸造したもの。5年の差で、色が黄金色に変化し  
ているのが分かる

4. テイスティングした22種。遊び心のあるラベ  
ルには、歴代オーナーへのオマージュなど、深い  
意味が込められている

